



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
3月26日
発行

第81回 「日銀の金融政策についての4つの疑問」

～物価目標の撤廃を～

初めに

3月19日の金融政策決定会合では、デフレ脱却を目指す日銀の金融緩和が手詰まりに陥っていることが明らかになりました。物価は依然、前年比マイナス、打つ手も限られている、とあればそれも仕方ないでしょう。そもそも、日銀が掲げる「デフレ脱却により景気をよくする」という発想に無理があると思います。今回はこの点も含めて日銀の緩和策を見直します。

需要と価格の順序が逆

まず疑問に思うことは需要と価格の動く順序が逆ではないかということです。通常ものの価格が上昇する時はまずそのものの需要が高まり、次いで価格が上がりますが、日銀の主張はこの逆です。これが日銀の主張に対する第一の疑問です。

最終目標は景気でなく物価上昇

第二の疑問は金融緩和の最終目標が景気の改善でなく物価上昇にあることです。金融政策は経済を良くするために行うということが一般的だと思います。例えば米国の様に日銀以外にも物価目標を掲げる中央銀行はありますがその場合でも景気に関する目標も設定しておくのが普通で、日銀のように物価にこだわる中銀は珍しいと思います。何故景気より物価を重視するのか疑問です。

技術革新の影響

21世紀に入った辺りから物価上昇圧力が小さくなっているように感じられますが、これは日本だけでなく世界的な状況です。この理由として考えられるのがグローバル化とITなど科学技術の進歩です。この影響により日銀が掲げている2%のインフレ目標が困難になっている事は考えられます。更に一段と困難になることもあるでしょう。こうした要因の影響を考慮しなければいつまでたっても物価目標は達成できません。これが日銀に対する第三の疑問です。

物価上昇は良いことか？

デフレ的な状況が長く続いたため世の中全体がデフレを前提とした仕組みになっているように思います。もしそうであればここで急にインフレになれば混乱をきたす恐れがあります。その場合最もダメージを受けるのは所得の低い人達です。この様に考えるとインフレは善と言うよりもむしろ悪というように思えます。この点について日銀はどう考えているのか？これが第四の疑問です。

結論

以上述べたように現在の日銀の金融政策には様々な問題があると思います。例えば政策目標を物価から景気に変更するなどの改革が必要ではないかと思えます。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。